

**踊る心・考える耳** dancing heart / thinking ear

二人展 今井祝雄・中川裕貴 IMAI Norio, NAKAGAWA Yuki

03月17日(水) - 04月03日(土)

OPEN pm 12-7 水・木・金・土曜(日・月・火曜休廊)

今井祝雄は19歳のときに具体美術協会の会員となり、白のレリーフで注目を集め、以来現在まで内外の展覧会で数多くの作品を発表してきました。映像、写真、パフォーマンスに至るまで多様なメディアを用いた表現には音を素材にした作品も少なくありません。

中川裕貴はチェロを使い、自らの演奏という行為を客体化したメタミュージックを志向する新鋭の音楽家です。音の可能性を試みる独自の演奏活動には、様々なジャンルのアーティストとのコラボレーションがあります。

本展では、今井が1973年に自らの心臓音を素材に制作した「踊る心」と、チェリスト中川裕貴によるサウンド・インスタレーションを試みます。年齢もジャンルも異なる二人のボーダレスな共演は、きっと私たちの心をも躍らせてくれることでしょう。

+1 art

## | 展示作品 |

## ■ 今井 祝雄

《踊る心》

インスタレーション

/ スピーカー(直径20cm)+心臓音 1973



《記憶の陰影ーかたつむり》\*画像は別ページ

平面 / アクリル、綿布、基底材 H910xW606xD120mm 2020

## ■ 中川 裕貴

《Broken cello, Automatic play featuring Heartbeat》\*画像は別ページ

「壊れたチェロ」による自動演奏機構

チェロのボディに取り付けられた様々なパーツが駆動し発音する仕掛け(技術協力:白石晃一)

## | 関連イベント |

## トーク &amp; パフォーマンス talk &amp; performance

- ・パフォーマンス『おとのはディスタンス』 今井 祝雄+中川 裕貴
- ・ライブ 中川 裕貴
- ・トーク『こころ踊る音』  
ゲスト、川崎 弘二\*x 今井 祝雄・中川 裕貴  
\*川崎 弘二(電子音楽研究、『武満徹の電子音楽』等、著書多数)

| 日 時 | 3/20(土) 14:00~

| 場 所 | 高津宮「富亨」(+1artから徒歩15分)  
大阪市中央区高津 1-1-29 www.kouzu.or.jp

| 参加費 | 1000円

| 要予約 | gal@plus1art.jp

## ゲリラ・ライブ guerilla live

チェロ演奏 | 中川 裕貴

ギャラリーに於て随時開催。

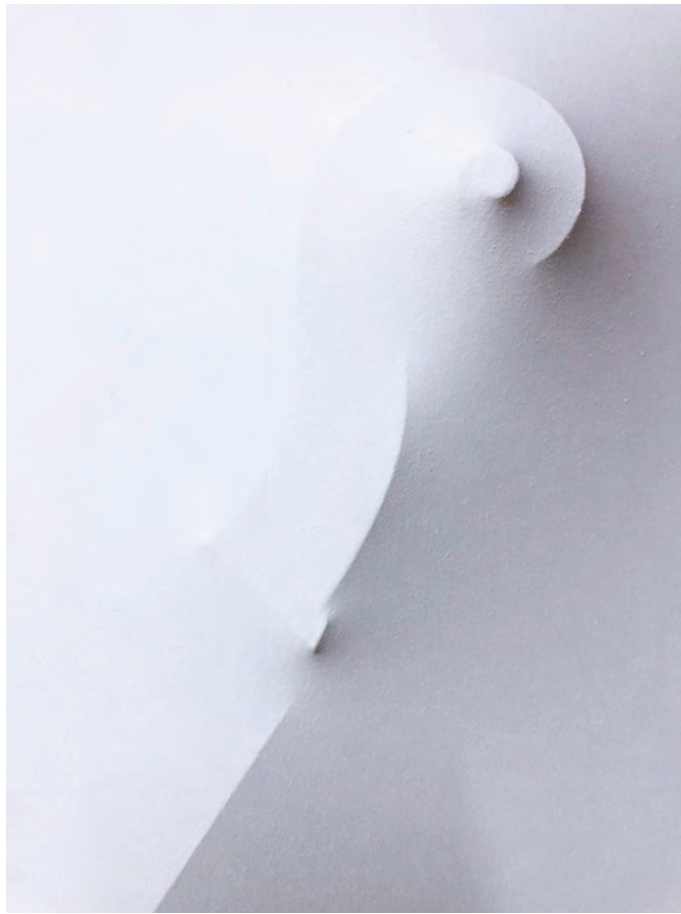
日時等 詳細はホームページでお知らせします www.plus1art.jp



photo by Takuya Oshim

今井  
祝雄

IMAI Norio



記憶の陰影—かたつむり(部分) 2020 910x606x120mm キャンバス、アクリル、綿布、基底材

仰向けに置かれたむき出しのスピーカー。真っ黒なコーンペーパーの上で、[IMAI]と記された小さな紙片が躍っている。ブルブルと震えてはひっくりかえり、ときにピョーンと跳び上がりスピーカーから弾き出される。音源は私の心臓の鼓動である。1973年の拙作《踊る心》と、チェリスト中川裕貴による初のサウンド・インスタレーションがギャラリー空間で協奏する。ほぼ半世紀を隔てた二つの音が醸す共時的な“演奏”に耳を澄ませてみたい。

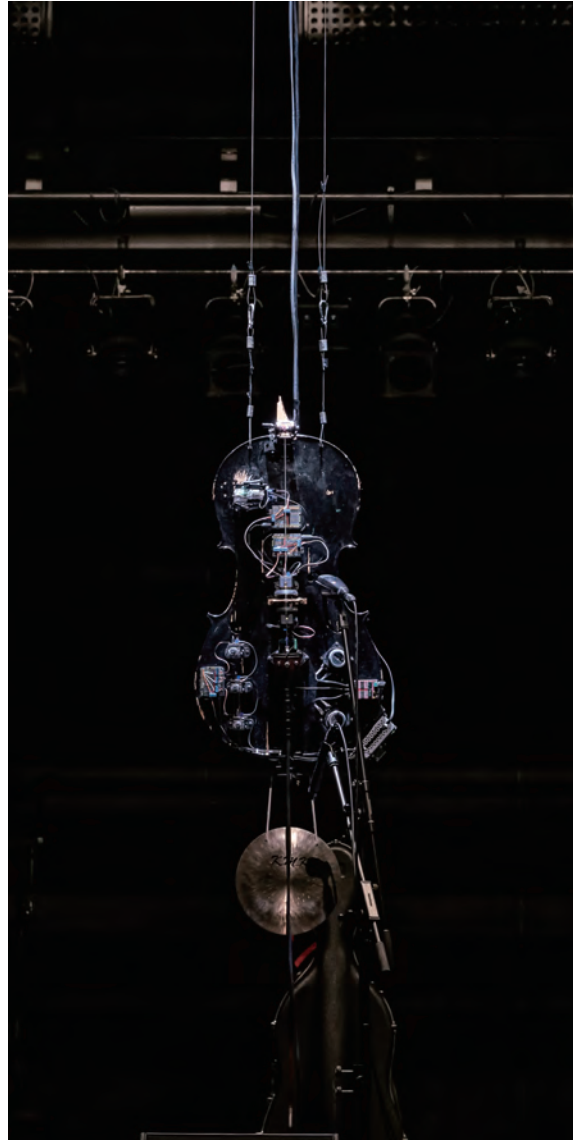
- 1946 大阪生まれ。
- 1965 具体美術協会会員(1972年解散まで全展出品)
- 2019 日本美術サウンドアーカイヴ—今井祝雄《Two Heartbeats of Mine》1976年(+ 1 art)
- 2019 個展—行為する映像(アートコートギャラリー/大阪)
- 2019 波一周波数(FRISEキュンストラハウス/ハンブルグ〜cas/大阪)
- 2019 IAFT 19/20 in Osaka(クリエイティブセンター大阪)
- 2019 in number, new world/四海の数(芦屋市立美術館)
- 2018 「具体、絵画の空間と時間」(スーラージュ美術館/フランス)
- 2018 個展—物質的恍惚(アクセル・アンド・ヴェルヴォルト・ギャラリー/アントワープ)
- 2017 ロッテルダム国際映画祭(オランダ)、イメージフォーラム・フェスティバル2017、
- 2017 個展—余白の起源(OZASA KYOTO)、個展—音のケルン(+ 1 art/大阪)
- 2016 performing for the camera(テートモダン/ロンドン)
- 2015 個展—タイム・コレクション(ユミコチバアソシエイツ/東京)
- 2015 PROPORTIO(フォルチュニー美術館/ベニス)
- 2015 〈Re: play 1972/2015—「映像表現'72」展、再演〉(東京国立近代美術館)
- 2014 個展—白の遠近(ギャラリー・リチャード/ニューヨーク)
- 2013 具体:素晴らしい遊び場所(グッゲンハイム美術館/ニューヨーク)
- 2013 個展—オン・ザ・ピアノ(ギャラリーあしやシュレ/兵庫)
- 2012 「具体」ニッポンの前衛18年の軌跡、国立新美術館/東京
- 2012 A VISUAL ESSAY ON GUTAI AT 32 EAST 69 STREET (Hauser & Wirth / ニューヨーク)
- 2011 nul= 0 —国際的文脈におけるオランダの前衛1961-1966(スキューダム市立美術館/オランダ)
- 2009 ヴァイタル・シグナル—日米初期ビデオアート  
(ジャパンソサエティ/ニューヨーク、ボストン美術館、ロサンジェルス・カウンティ美術館ほか〜2010)
- 2006 ラディカル・コミュニケーション:日本のビデオアート1968-1988(ゲティセンター/ロサンジェルス)
- 1994 時間/美術—20世紀美術における時間の表現(滋賀県立近代美術館)  
結成50周年記念「具体」回顧展(兵庫県立美術館)
- 1988 日本先端科技芸術展(台湾省立美術館)
- 1982 第4回シドニービエンナーレ(オーストラリア)  
現代美術による写真(東京国立近代美術館〜京都国立近代美術館)
- 1976 映像表現'76(KBSレーザリアムセンター/京都、《6/8拍子》)
- 1975 The Party(ギャラリー16/京都、+植松奎二+村岡三郎+マン・レイ)
- 1973 <音器>及び<飛翔音符>への試み(ギャラリー・ペテ/大阪 《踊る心》)
- 1972 3人の心臓音による街頭イベント(御堂筋/大阪、+倉貫徹+村岡三郎)
- 1970 万国博美術展(万国博美術館/大阪)
- 1967 第5回パリ青年ビエンナーレ(パリ市美術館)
- 1966 第10回シエル美術賞展1等賞(東京〜京都)、空間から環境へ(松屋/東京)

中  
川  
裕  
貴

NAKAGAWA Yuki

今井さんの「踊る心」と共に、私がかつて使用した「壊れたチェロ」による自動演奏機構（チェロのボディに様々なパーツが取り付けられ、それらが駆動することでチェロが人の身体を介さず発音する仕掛け）を美術家・白石晃一さん監修のもと、稼働させます。この展覧会において、私は駆動するチェロとその機構／音、そして心臓音、揺れる「IMAI」の紙片のことを視聴（みき）きしながら、それらがひとつの空間である距離感を持って“踊れる”よう、広い意味での「作曲」に取り組もうとしています。この状況に“ききみみ”を立て、考えながら。

1973年の心臓音を、使用を終えかたちを変えた楽器によって「変奏」させる。その試みを会場で体験していただければ幸いです。



Broken cello, Automatic play featuring Heartbeat  
(photo by Yoshikazu Inoue)

1986年三重県松阪市出身。

同志社大学工学部情報システムデザイン卒業。

京都市立芸術大学大学院音楽研究科修了（音楽学）

演奏と演出をチェロ／電気／適当な録音を使用して行う。演奏行為とそれによって現れる音のあいだに在る「距離」を測ること、また「演奏をしながら自身がそこ／ここでのどのように存在するか」を問うこと（またそれへの頓智）をテーマとする。この矛盾した作業（動きながら自分で自分の距離を測る）が発する音楽への襲来と、音楽からの襲来について、演奏という行為を通じ考えている。

<https://www.yukinakagawa.info/>

過去の主な企画・出演

- 2021 中川裕貴＋米子匡司「Dissimulation」／旧矢掛本陣石井家住宅（岡山県）  
| 矢掛町主催イベント「ワーケーションリゾート・備中矢掛」内の展覧会  
「宿場町現代アート回廊」において、米子匡司との共作によるサウンド  
インスタレーションを発表（2021年1月8日-17日）
- 2020 烏丸ストロークロック「まほろばの景2020」／伊丹AIホール（兵庫）、  
東京芸術劇場シアターイースト（東京） | 舞台音楽、演奏を担当
- 2020 中川裕貴「アウト、セーフ、フレーム」／会場：ロームシアター京都サウスホール  
| 作曲、演奏、演出による新作コンサート。ロームシアター京都×京都芸術セ  
ンター U35 創造支援プログラム“KIPPU”採択事業（2020年7月31日-8月2日）
- 2019 KAC Performing Arts Program 2018 / Music # 1 中川裕貴「ここでひくこ  
とについて」／京都芸術センター | 京都芸術センター全体を使用した3  
つのプログラムを三日間に亘り上演
- 2018 烏丸ストロークロック「祝祝日」／せんだい演劇工房10-BOX（仙台）、  
広島市東区民文化センターホール（広島） | 舞台音楽、演奏を担当
- 2018 烏丸ストロークロック「まほろばの景」／ロームシアター京都（京都）  
東京芸術劇場シアターイースト（東京） | 舞台音楽、演奏を担当
- 2017 中川裕貴、バンド「対蹠地」／京都芸術センター講堂  
／KAC Co-programDにおいて企画、上演
- 2017 ライブ「《水中エンジン》記録音楽をつくる」／green & garden（京都）  
| 「國府 理 水中エンジン redux」において國府理氏が「水中エンジン」  
（1号機、2号機）を動かしていた際の音や声の録音、「水中エンジン再制作  
プロジェクト」（3号機、4号機）の過程で生じた音や声の録音を用い、一つ  
の音楽作品を制作
- 2016 ソロパフォーマンス公演「後／戯」／UrBANGUILD（京都） | 作・演出・演奏
- 2015 山城大督個展「HUMAN EMOTIONS／ヒューマン・エモーションズ」  
／ARTZONE（京都） | 映像作品内でのサウンドパフォーマンス